第８回広陵町ごみ減量等推進審議会 議事録概要

■ **開催日時**　令和６年7月4日（木）午前１０時～午前１１時３０分

■ **開催場所**　リレーセンター広陵　３階　研修室大

■ **出席者**

＜委員＞　１１人（欠席４人）

＜町・事務局＞　４人

■ **次第**

１　開会

２　会長あいさつ

３　議事

（１）広陵町のごみ減量対策等の取り組みに関する諮問事項についての答申（案）について

４　その他　　次回開催日の日程について

５　閉　会

■ **配布資料**

会議次第

座席表

委員名簿

広陵町のごみ減量対策等の取り組みに関する諮問事項についての答申（案）

追加資料（委員より）

■　議事内容

３　議事

・（１）広陵町のごみ減量対策等の取り組みに関する諮問事項についての答申（案）について

（事務局）

議事の１、広陵町のごみ減量対策等の取り組みに関する諮問事項についての答申案について説明。変更させていただいた箇所について説明。

（事務局答申案の説明）

（委員）

P.7のごみ減量化、広報誌の一覧は何回か入れてない。役割分担で行政のやるもの、資源化推進のなかで行政は確保。平成17年度から回数をいれているが、具体的にはどういったものなのか。意識向上の情報発信の回数、１か月に１回の広報誌なはずなのに12回を超えてやっており、昨年の審議会はじまったときに広報誌の写しをいただいて、それ以外にないのですかと質問をさせていただいたが、それ以降示されていない。どんなものなのか見てみたい。具体的になんなのかが知りたい。

（会長）

こういったものがありましたという事例があれば。

（委員）

次回にでも示してほしい。

次にP.8下3行「また、…考えている。」は必要なのか。考えているというのはどうなのか。

P.12赤字の部分、自分が提供した高齢化率、世帯数に関連してきていると思うが4行目から書いてあるが中身が理解できない。「高齢化率の増加は…抑制されていると考える」は主語がない文章のように思う。「人口、世帯数が増加すると…できているといえる。」証拠がない。担当者の感想ではないか。提供した資料の読み方としては、事業者がどういった取組をしているかわからないので取組を明らかにしてほしいが、減量されているのは住民が取り組んだ結果である。住民が有料化になった結果の努力。行政が何の努力をしたのか具体的に示してほしい。

（会長）

例えば委員の方で、どういった文面にしたらいいかお考えを聞かせてほしい。

（委員）

特にどうしたらいいかはないが、おこがましい。事業者は何をしたか意見を聞かれていない。住民は自ら選んでやった。住民は努力があったが、ここで3者と入れてしまうのは時期早々ではないのか。

（会長）

事業者を除いた方がよいのか。

（委員）

事業者の努力がみえていないので、それを入れるべきではないか。理解ができないまま、3者といってしまうのはよくないのではないかと思う。

（委員）

以前も話しましたが、肥料や廃棄ビニールを回収している。

（委員）

その他資源ごみについても取組をしていたのではないかと思う。

（委員）

現にされているものだとは思う。ただ、前回の答申のなかで、事業者の果たす役割は書かれており、具体的にはP.17項目がある。その項目に応じてどういったことをされているかが明らかになればそれでよいかと思う。

（会長）

ご指摘があったが、少しでも環境に配慮した取り組みをしてきたわけだから、そういった視点で明らかにすればよいのではないか。

（委員）

前回、どういったことをしているかを行政が広報などに示して周知しなければならないのではないか。

（会長）

最終的には表現方法につながる。マルチな対応だとか資源を有効に活用しようとか事業者の努力は評価すべきだと思う。ここは3者の立場でそれぞれ努力されていると思う。そのため、この文章はそのまま生かしていいとは思う。強弱はあるだろうが、これからどうするか6番以降を考えていくべきかと思う。

（副会長）

行政は何しているのかと委員から出ましたが、平成１７年から2月に1回は町内を回ってごみ拾いなどボランティア活動をしており、行政はどこで活動したらよいかを見回って判断している。行政はどういった取組をしているかはっきり明記した方がよいのでは。

（委員）

本日の議論の範囲でいうと、意見が出てくるのはいいことだとは思う。答申として客観的な視点で分析の仕方、客観的ではないような書き方なのではないかとご意見かと思う。客観的な視点を積み上げて、広報誌の中身がどういったものなのか詳細に説明するとか答申を通じて多くの方が減量

への理解が深まるような資料の出し方をするのか、議論されているもので出す。客観的な視点は必要だと思うし、解釈の仕方に十分注意した方がよいのでは。出てくるものの裏側には何かあると思うので、経済的な変化や生活様式の変化を受けているのか受けていないかという評価も必要だとは思うが、裏側も出さないで客観的な視点のみだと委員の言うとおり、言い過ぎかと思う。

誤解のないように丁寧に説明されれば納得はするし、次の機会につながるのでご注意いただければと。

（委員）

去年まで行政は何をしてきたのかを聞いてきたが、人口が増えたけどごみが減ったということしか出てこなかったが、部長が替わって資料が出てきた。毎年行政が分析をするべきだった。慌てて資料が出てきたので、疑わしいという意味で意見した。

（会長）

仮に文言を変えないにしても、もう少し具体的に内容をいれる。広報誌ではこういれて何か所にいれたかとか事例を踏まえていれたらよいのでは。委員は説明が不十分なのではという意見なので、次回もう少し説明を入れて示してもらえればよいのではないか。

（委員）

P.12「図４～考える。」は内容的には問題ないと思うが、読みづらいのでどこかで文章をきってもよいと思う。

下から5行目基本計画が突然出てくるので基本計画とは具体的にどういったものか入れていただきたい。また、次の行にPDCAのかっこ書きの内容が再度記載されているので統一したらどうか。

（会長）

段落を区切って読んでもらった方がいい。基本計画が突然でてくるので、この計画が一体どんなものなのかを含めて、どう関係があるのかわかりやすく表現してもらいたい。PDCAのかっことそのあとはダブっているのでかっこ書きを優先して見直していいのではないか。

（委員）

P.17会長が前回見直してくれといったところかと思うが、今後の役割というところで③行政の役割はやっていきましょうというのはいいが、毎年行政として検証してほしい。なおかつその結果を積み上げていく。ずっと積み上げていけば10年後でもすぐデータが出てくる。行政なのにそういった書類がすぐ出てこないのが不思議である。P.18具体的にあり、水切りについて副会長も以前いっていたように力を入れているがエコフェスタどうのとかあるので、順番を見直した方がよいのではと思う。

P.19に組成分析結果があるが、あくまで全体量の組成分析結果である。それでは水分の結果しかでてこない。各地区に分析しないとなのではないか。どの地域が分別されていないかデータ化して啓発をしてくべき。町内20か所くらいしてほしいが、10か所くらいやってみれば地域の傾向がみえるのではないか。

（会長）

指摘は行政の役割であり、特に、毎年検証するところまでやっていくべきなのではないかと意見。どの部分というわけではないが、行政として毎年計画を立て、行って、評価してほしいというのが意見とし出た。前回の審議会で不十分だったのは、行政に義務化されていなかったので、ＰＤＣＡは組織としては重要な部分なので、義務化とか方向性を示すべき。組成分析について、委員はずっといっているので、傾向を示すべきかと思う。全体を一括したものをどう評価するかではなく、地域ごとにどういった対応をすべきかを進めるべきという意見であった。

役割については、順番は重要である。羅列だけではだめなので、これが最初にくるべきというものは取捨選択してもよいのではないか。行政がどこに着眼して、どう取り組むかを順番含めていくのがよい。

ＳＤＧｓの1から16は優先したい順番なので、順番は適当に並べるのではなく方針としてなので、再度事務局で検討してほしい。

（委員）

前回時間のない中で建設基金に積み立てているのか、ということであったら条例化されているということだったが、内容を確認したらちょっと違う。この施設ができたときも15年後に停止ということがわかっているので、その時から積み上げるべきだった。建設費にあてるところはどこにもない。それを返してほしい。

（会長）

資料について説明をお願いしたい。

（委員）

（提示資料について説明）

（会長）

広陵町として収入の使い道としてはどういったものがよいと考えているのか。

（委員）

10年間に基金条例ができている。できた前はどういった使い道されているのか確認した。それまではごみ処理経費の収集運搬、処理経費に充ててあった。担当課での認識もなかった。一つはごみ袋代がかかっているのでごみ袋の作成費用に充てるべき、次にごみ減量・資源化の推進にあてるべき。ごみ減量・資源化の方が重要であるとは思う。地域でも取組をしているので、そこにお金をもっていけばいいが、基金ができる前にも同じような条例があった。環境にやさしいまちづくり基金があり、ごみ減量・資源化に充てており、各自治体がモデル事業をやっていた。一部生活環境美化活動をやっていたので、そちらに充てるべき。それ以上に当てはめるものがないというところができてから初めて積立基金に充てるべき。

（会長）

積立とかにあてるのであれば活動とか美化活動に収益を当てはめてもいいのではないかという意見だったが、事務局としては今後、どのようなかたちで活用したらよいのか意見はないか。

（事務局）

現段階の意見としては、この審議会で議論いただいた内容を答申する。事務局として考えられるものとしては、前回前々回基金に積み立てるという話があったが、施設が完成するので積立を考えるべき時期になると思う。ただ、どこにあてるのか今後の審議会で議論いただいてこういった形で充ててはいいのではと意見を出してもらえればよいと思う。

（会長）

こういったところで活用してほしいという答申をつくるのは可能である。その答申でどうするかはまた別ではあるが答申としては可能であるとの回答。審議会は町の立場ではないので、町の意向を考慮する必要はあるとは思うが、答申として出してもらいたいということは可能。その後議会でそういう方向に進む可能性もあるので、審議会としてはよりいい使い道を答申するのが良いのではないか。その他の委員の意見も頂戴したい。

（委員）

これまで搾取されたものを返してほしい。一般廃棄物処理は町の責務。15年前から施設を潰すという計画があるのであれば、有料化する時点から積み上げるべきだった。

「ごみの有料化されたときにどういった議論されたか議事録を確認した。町長の答弁。「地球のことを考えながら…」いう議論があった。

（会長）

途中でやむを得ず用途がかわったということもある。

（委員）

議論を整理した方がよいかと思う。指定ごみ袋の収入をどう使うか議論につながったのは委員に感謝すべき点。使途について、議論がなされないまま建設に使われたのではないかということだったが、処理は市町村の責任ではあり、そこの自治体にあった使い方というものであるが、有料化された際にどう議論をされたかが今はわからない。地域固有の問題に充てるべきではあるが、その際にどういった議論がされていたのか整理すべきなのではないか。

（委員）

ごみの有料化されたときにどういった議論されたか議事録を確認した。町長の答弁。「地球のことを考えながら…」いう議論があった。

（委員）

集まったものをどう使うのかが議論されていたのか、町の議会で説明されたものが施行されてきたか議会で監査をしてできているはずである。制度設計のときにどうなったのか、議会の中で議論されてきたのかが大切。それに関わる町民、行政部署がどうかかわってきたのか、確認したうえでこれからどうするべきかを議論を進めたらよいのでは。事例であげられた、自治体も導入時期、導入後の年度の幅はあるが、そういうことになった議論はあったはず。他自治体で関わってきた中には適正につかわれているかを審査する会が有ったりする。より多くの人が適正に使われているのかのチェックを行えるのでそういった方法を取るが良い。

令和5年3月の基本計画で出しているのでそれの目標と施策は少なくとも評価して、町民にわかるかたちで出すべき。目標達成のメニューに合わせた評価の方法を示した方がよい。

また、組成分析はお金がかかるし、地域特性に合わせてエリアを合わせる。世帯数とか戸建てが多いとかどういう住宅が多いのかモデル地区を決めて、分析をして、地域ごとの施策をやっているという自治体もあるけど、ものすごいお金がかかるので毎年はできていない。他市の事例を確認して、やるのであればモデル地区を設定してよいのでは。

有料化のことは重要なことだと思うので、確認精査したものを回答してもらった方がよいかと思う。基金条例もあるが、議事録が5年しか保存されていないはずなので、内容を事務局で調べてご回答いただいた方がよいのではと思う。

（会長）

次回までに有料化までどういった議論がされてきたのかをまとめてほしい。

（委員）

経過は、議事録があるが事務局から提示されたら明らかになるのでそれでよい。

処理基本計画は令和5年にできている。新しいものがあるのであればそれを提示してもらえればつじつまがあう。

組成調査は大阪では毎年されている。30か所くらいの組成調査を毎年している。広陵町はやったことがないので、住民が抵抗あるのかどうかはわからないけど、そういうことも踏まえてやるべき。

（会長）

20年程前、京都大学の先生が組成分析をされたことがある。京都市の関連部署とやった。プライバシーがあるので、広陵町の住民に協力してもらえるのかどうかはわからない。全地域からやるのは難しい。モデル地区を抽出してやるのが良いかと。行政として次の段階としてどうするのか。審議会としては組成分析をするべきと答申したいと思う。

答申として出す際は、ごみ袋の価格について評価をしなければならないと考えている。委員から資料を提供いただいている。奈良県内の有料化に関する資料としてもある。現状として普通なのか高いのか評価を出さなければならない。この点について、ご意見頂戴したい。

（委員）

非常に難しいのではないか。評価をするに当たってものさしが必要である。単に安いか高いかではなく、例えばごみのごみ処理費用は人口の単価としてどうなのか、基準を求めるデータの取り方を決める必要がある。施設の基金が不適切と考えるのであればその分を引いて単価を出すとか、基準の信頼度も含めて議論するのであれば評価は難しいのではないか。

（会長）

判断するのであれば、いろんなファクターで判断しなければならない。一つの判断材料としては、委員の資料はどうか。事務局的にはごみ袋の値段に対して適正なのか判断が必要なのか。

（委員）

1枚にあたっての原価は、10分の１が処理だとか、どれくらいが基金に充てられているのか1枚当たりのものがわかればいいのではないか。たとえ10円でも安くなったらうれしいなとか、ごみ減ったらいいなというきっかけになるといいのではないか。

（事務局）

諮問として、指定ごみ袋の価格について、どういうことかは会長がいったように今現在の状況を考えたときにごみの値段としては適正か、いろんな表現方法があるし、かなりの判断基準が必要となってくるので、意図としては、適正であるか諮問していると判断している。審議会でどこまで出してもらえるかは難しい。

（会長）

適正価格か判断してほしいとの町長からの話があったかと思うがやはり出すべきだとは思う。

（委員）

制度設計のときに有料化するときに減量を推進して目標を達成したいということであれば、袋1枚いくらだから2割減るのであれば。町民の人に必要な処理施設を建てるためには足らないので町民から負担しましょう、1億円必要だから逆算していくらかとか。減量するための動機付けをするため。目標に合わせた料金設定として適正かどうかを評価するとか。実際にそのお金が集まるか。その目標にあわせた金額として適正かそうではないか妥当かどうかという議論を目指しているのであれば目指している方向どおりになっているのか。方向の確認が必要ではないか。

（会長）

いろんな背景があってこそ、適正かどうかを議論が必要であり、今回はそこまでの資料がないので次回議論したいと思う。

（委員）

一つ気をつけるべきなのはP.29の6行目の表現はしないでほしい。行政の決まり文句のようになっている。

また、「ごみ処理運営費用・…見直す努力が必要である。」はいつ出た話なのか。

（会長）

以前していたかと思う。

４　その他　　次回開催日の日程について

（事務局）

次回の開催は、8月下旬から9月上旬を目途に開催したいと思っている。開催日が決まったら1か月前には通知する。

（以上）